

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
国際日本	国際日本	夜・通信			26	26	13	
建築&芸術	建築&芸術	夜・通信			24	24	13	
現代社会	現代社会	夜・通信			30	30	13	
	現代社会 (通信教育課程)	夜・通信			32	32	13	
経営	経営	夜・通信			40	40	13	
健康栄養	管理栄養	夜・通信			21	21	13	
国際看護	看護	夜・通信			14	14	13	
(備考) ・令和4年4月 学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から国際日本学部国際日本学科に名称変更。 ・令和5年4月 経営学部経営学科 開設。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info/higher-education/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人大手前学園ウェブサイト内「学園データ→情報公開」にて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R4.4.1～ R8 定時評議員会 終結の時まで	法務
非常勤	企業取締役会長	R7.6.12～ R11 定時評議員 会終結の時まで	地域連携
(備考) 他1名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(通学課程) 授業開始前年度からウェブを介して作成していただくよう、担当教員に依頼している。本学の教学運営の基本方針(3つのポリシー)を示し、担当教員は「授業の目的」「到達目標」「授業概要」「各回の授業計画」の他、「課題に対するフィードバックの方法」「授業時間外学習」「成績評価の基準と方法」などの項目に入力していく。また、通学課程では各科目に本学独自の「ディプロマポイント評価観点」を①Knowing(知識とリテラシー)、②Doing(実践力)、③Being(信念と志)の3つに分けて示し、学生がどのような能力を身につけることができるかを示している。入力された内容については、各学部長及び各メジャー主任、教務課が確認する。</p> <p>(通信教育課程) 新設科目については、コンテンツ制作時にシラバスの作成を依頼している。既存科目については、開講前年度にシラバス更新の有無を担当教員に確認し、修正を行っている。 シラバスの作成時には担当教員に通信教育課程のカリキュラム・ポリシーを示し、「学習目標」「学習の進め方」「各回の授業計画」のほか、「授業時間外学習」「成績評価方法」等の項目を明確に示すように依頼している。シラバスの内容については、現代社会学部長と通信教育部長、通信教育部事務室が確認する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>(通学課程) 大手前大学ウェブサイトで年度初めに公表する。 https://sb.otemae.ac.jp/syllabus/SyllabusSearch.aspx (通信教育課程) 大手前大学通信教育課程の学修支援システムやウェブサイトで年度初めに公表する。 https://saas.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0NjIyNjJ9&detailFlg=0&pNo=1</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(通学課程)

成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意 味	評価点の範囲	グレードポイント
A	特に優秀な成績	100～90	4
B	優れた成績	89～80	3
C	一応その科目の要求を満たす成績	79～70	2
D	単位が与えられる最低の成績	69～60	1
F	不合格	59 以下	0

学生に対しては、配布している冊子『履修ガイド』で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスにおいても周知を図っている。なお、シラバスには「成績評価の基準と方法」の項目を示し、通学課程では記入する担当教員に「試験、小テスト、レポート等の提出物、発表等、評価方法及びそれぞれの評価配分（%）並びに各成績評価（A、B、C、D、F等）の基準を明記してください。また授業への出席は常であることが前提のため、出席は評価方法には含めないでください。」と依頼している。

(通信教育課程)

『学生便覧』にて成績評価について示すとともに、各種ガイダンスや学修支援システム上で学生に周知を図っている。なお、シラバスには「成績評価方法」の項目を示し、評価材料（確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験等）と、各成績評価（A、B、C、D等）ごとに学修の結果（評価の観点と程度）について基準を示している。

成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意 味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

通信授業・メディア授業等のオンライン授業では、各回に課題を設置し、理解度チェックを行っている。なお、各クールの単位修得試験（ウェブ試験、または、レポート試験）の受験資格は、各回のオンライン授業動画を視聴の上、課題を提出することを条件とし、学修成果と学生ごとの学習時間（オンライン授業視聴時間等）を適正に評価して単位を与えている。

成績発表後には成績照会期間を設け、シラバスに記載のある成績評価方法に照らし

<p>合わせて自身の成績に疑問がある場合は問い合わせの機会を設けている。担当教員からの「評価ポイント、回答への示唆、今後の学習分野や学習方法等のフィードバック等」の回答があり次第、該当学生に通知し、学修アドバイスに繋げている。</p> <p>なお、成績照会の受付や担当教員からの回答通知については、透明性、公平性の観点から通信教育部事務室が仲介している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>5段階の成績評価に以下のとおりグレードポイントを付し、履修した授業科目の単位数にこのポイントを乗じ、それらの合計を履修登録単位数の総合計で除して算出する。</p> <p>「A」=4、「B」=3、「C」=2、「D」=1、「F」=0</p> <p>特定の学期を対象として算出したものを「学期GPA」、入学時から通算したものを「通算GPA」とし、各学生の担当アドバイザー教員によって、次の履修指導を行っている。</p> <p>①前学期のGPAが1.5未満の場合 学生本人と面談し、注意と学修に関する指導を行う。</p> <p>②通算GPAが1.2未満、又は「学びの道しるべA」「キャリアデザインI」もしくは「キャリアプランニングI」が不合格の場合 学生本人及び保護者と面談し、注意と学修に関する指導を行う。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>入学時から通算した「通算GPA」について、奨学金等の継続認定の基準等に利用するとともに、各学生の学修管理の指標として明示している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info/higher-education/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>① 修業年限</p> <p>卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、2年次に編入学した者については3年以上、3年次に編入学した者については2年以上となる。</p> <p>大学には、休学期間を除き、8年間（編入学した者を除く。）在籍することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。</p> <p>② 卒業要件単位数等</p> <p>卒業するためには、各学部において次の要件をすべて満たした上で、卒業の要件となる科目の中から124単位以上を修得する必要がある。</p> <p>i) 国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部</p> <p>①ベーシック科目から「学びの道しるべA」「学びの道しるべB」「学びの道しる</p>	

ベC」「学びの道しるべD」「アカデミックスキルズ」「未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求」「未来への道を築く：仕事理解とキャリア形成」の7科目14単位を修得していること。

- ②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。
外国人留学生については、「英語Ⅰ」に替えて「外国人のための日本語科目」から指定の6単位を修得していること。
- ③「情報機器の活用とプレゼンテーション科目」から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④専攻科目から、所属する学部の専攻プログラムのメジャーを修めていること。

ii) 経営学部

- ①ベーシック科目から「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」の4科目8単位を修得していること。
- ②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。
外国人留学生については、「英語Ⅰ」に替えて「外国人のための日本語科目」から指定の6単位を修得していること。
- ③情報機器の活用とプレゼンテーション科目から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④「経営学」メジャーを修めていること。
 - ・専攻科目から必修20単位を修得していること。
 - ・5つの専門分野（【経営】【会計】【マーケティング】【デジタルビジネス】【いきいきキャリア】）のうち1つの専門分野から16単位以上を修得していること。
 - ・経営学部の専攻科目から74単位以上修得していること。

iii) 健康栄養学部

- ①ベーシック科目から「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」の4科目8単位を修得していること。
- ②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。
- ③情報機器の活用とプレゼンテーション科目から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④各年次における専攻科目の必修科目（ただし次号に掲げる科目を除く）計96単位をすべて修得していること。
- ⑤専攻科目の選択必修科目から「管理栄養士特講Ⅰ」および「管理栄養士特講Ⅱ」または「卒業研究」の計4単位を修得していること。
- ⑥「栄養学」メジャーを修めていること。
- ⑦通算GPAが1.5以上であること。

iv) 国際看護学部

- ①総合科目から、以下の22単位以上を修得していること。
 - ・必修17単位
 - ・[グローバル社会と言葉]から「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位
 - ・[グローバル社会と言葉]から「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位
 - ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上
- ②専攻科目の[専門基礎分野]から必修29単位を修得していること。
- ③専攻科目の[専門分野]から必修71単位を修得していること。
- ④「看護学」メジャーを修めていること。

⑤通算GPAが1.5以上であること。

(通信教育課程)

大学全体及び通信教育課程としてディプロマ・ポリシーを作成し、示している。

この方針に沿って、修業年限及び卒業要件単位数を学生に対して示している。既修得単位を含め124単位以上を修得し、以下の修業年限、スクーリング単位数を満たした者は、教授会の議を経て、卒業を認定する。

	卒業要件単位数 (うちスクーリング要件単位数)	修業年限
1年次入学生	124単位以上 (30単位以上)	4年以上
3年次編入学生	124単位以上 (16単位以上)	2年以上

上記方針に基づき、適切に卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

(通学課程)

大手前大学ウェブサイトにて公表する。

<https://www.otemae.ac.jp/faculty/policy/#diploma>

(通信教育課程)

大手前大学通信教育課程のウェブサイトにて公表する。

https://dec.otemae.ac.jp/about/basic_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
財産目録	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
事業報告書	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
監事による監査報告(書)	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 大手前学園中長期計画 2020-2025 年度 対象年度: 2020~2025 年度)	
公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/midtermplan/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info/accreditation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際日本学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>国際日本学部国際日本学科は、人類が創造してきた文化的行為を教育研究の対象とし、学修活動の中で、文化についての深い洞察力と高い教養を身につけ、異文化に対しても広い視野をもって尊重し理解することのできる教養豊かな人材養成を目的とする。</p> <p>(大手前大学学則第 3 条の 3 (1))</p>
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>大手前大学国際日本学部は、所定の卒業要件を満たし、以下の目標に到達した学生に対して卒業を認定し、学士(学術)を授与します。</p> <p>通学課程全体のディプロマ・ポリシーは、知識、実践力、信念と志を有し、社会に貢献できる価値ある人材を育成することを定めています。このことを基礎として、国際日本学部は、従来の人文系学部とは異なる国際的視点にもとづく歴史、言語、文化、文学の素養を持ち、俯瞰的、総合的なビジョンの形成に資する人材を育成するという具体的な目標を設置しています。一方では、日本の歴史、言語、文化、文学を学びこれを世界に向けて発信できる人材を、また他方では、世界の歴史や言語、そして文化や文学の素養を身につけ、グローバルな視点から日本社会のあり方を再構築することに資する人材を、それぞれ育むことを目標とします。</p> <p>このような人材育成の目標から、国際日本学部を卒業するには、以下の要件が求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) なによりも歴史、言語、文化、文学について豊かな教養と専門知識、およびその活用力を有していること。 (2) 専門知識や活用力をもつというだけでは、俯瞰的、総合的なビジョンの形成に資する人材とはいえない。単純に知識を学んで終わるのではなく、これをフィールドワークをはじめとするさまざまな体験をつうじて現実の諸問題(国際協力や国内外においても必要な多様な文化の共生、地域のまちづくり、文化財保存や歴史認識の問題等々)に対処する優れた国際感覚、そして他者と協働して問題を解決する実践力を有していること。 (3) 現実の諸問題に実践的に向き合い、振り返りを繰り返すことで、上記二つの能力を、さらに豊かな人間性と肯定的自己概念、および社会的責任を果たそうとする強い意志を有するまでに昇華していること。 <p>以上の三つの能力を身につけることが、本学部の人材育成の目標に到達する要件です。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>国際日本学部は、ディプロマ・ポリシーにおいて国際的視点にもとづく歴史、言語、文化、文学の素養を持ち、俯瞰的、総合的なビジョンの形成に資する人材を育成することを学部固有の目標と定めました。本学部は、これを通学課程全体のカリキュラム・ポリシーに謳われた学部の専門教育を柱としつつ、さらにクロスオーバーによる幅広い知識修得、クロスバウンダリーな実践的探究活動、そして常なるリフレクションといった学修方法をつうじて実現していきます。</p>

- (1) 1、2年次では基礎的な情報機器の活用、文献検索や資料講読、問題提起、解題の方法、発表をつうじてレポートの書き方などを学んでいきます。このときに、クロスオーバーによる履修をおこなうことで将来的に自分の専門を決める際に役立つ幅広い知識が得られます。
- (2) 3、4年次ではより深く専門科目を学修する一方で、各コースに分かれた少人数の専門演習が始まり、将来の自分自身の進路を見据え、プレゼンテーションや卒業研究に向けて取り組みます。
各コース、そしてそれを構成する各専攻のカリキュラムは以下の方針のもとに編成されています。

[史学コース]

歴史を学ぶことの意味は、過去の研究をつうじて現在のあり方を確かめ、未来への手がかりを得ることにあります。本学の史学コースは日本史、東洋史・西洋史、考古学・地理学の各専攻から構成されますが、各分野を幅広く修得し、一国史的な発想にとどまらないグローバルな歴史認識や文化財の保存・研究・活用に関する意識を持ち、豊かな人間性と今日の社会に責任を果たそうとする強い意志を身につけることを目標とします (DP②1、DP③)。

この目標に向けて、史学コース各専攻では、概説的講義や特殊講義、史資料の取扱いや解説とその保存方法、文化財の調査や分析方法、地理学的調査研究方法など知識とリテラシー (DP①) にあたる学びをしっかりと身につけていきます。また、野外実習をはじめとするクロスバウンダリーな実践的探究活動を通じ、地域社会等と協働して問題を解決する実践力を身につけます (DP②2)。これらの学びを前提に卒業研究をおこない、その研究の過程では不断のリフレクションがなされます。以上の学修によりディプロマ・ポリシーで示される人材へと到達していきます。

[日本研究・アジア研究コース]

日本研究・アジア研究コースは日本とアジアの文化・文学専攻と、日本語・日本語教育専攻から成ります。本コースでは、日本とアジアの文化・文学、および言語について複合的に学ぶことを通して、日本およびアジア諸国の魅力を理解するに留まらず、そこにあるさまざまな課題についても、文化的な側面から考え、行動できる力を身につけることを目標とします。

この目標に向けて、日本研究・アジア研究コースの各専攻では、まずは講義形式の授業やレベルに応じた語学授業において、それぞれの専門分野の基礎をしっかりと学びます (DP①)。同時に、より少人数での演習型授業における議論やグループワークを通して、日本を含むアジア諸国の現在、過去、そして未来について多面的に考える力を養うとともに国際感覚も磨いていきます (DP②、DP③)。そして最終的にはゼミでの学修と卒業研究等を通して、高い専門性を有するとともに、豊かな人間性と知性 (文化性)、そして社会的責任をも備えた人材へと到達していきます (DP②、DP③)。

[国際コミュニケーションコース]

国際共生コースは多様な専攻からなります。ディプロマ・ポリシーの狙い「国際的視点に基づく俯瞰的、総合的なビジョンの形成に資する人材育成」を、各専攻が各々の特長を活かして進めます。

英語国際コミュニケーション専攻では、ヨーロッパやアメリカの文化や文学を学び、その風土に暮らす人々の心情に触れ、理解する力を育みます (DP①)。実践的にはトランスランゲージングを活用し、複数の言語で自分の考えを表現する言語使用を学びます (DP②1)。外国語で意思が伝えられる自律した学修者をめざし、世界のどこの社会でも多様な他者と協働できる能力を身につけます (DP③)。

多文化共生専攻は、日本在住の外国人との豊かな共生社会を創造するために、多様性の理解と尊重する精神、国際的な知性と感性を磨きます (DP①、DP②1)。また

多文化共生の現状と問題点を当事者へのアプローチを通して知り、実際に地域振興に貢献できる実践力と実行力を身につけます（DP②2、DP③2）。

国際関係学専攻では、世界の平和と持続性に関わる知識、すなわち国際情勢と国際問題について具体的に理解します（DP①2、DP②1、DP③2）。同時に、知識に基づく国際貢献に必要なコミュニケーション・スキルも身につけてもらいます。語学力はもとより、国際情勢・国際問題を世界レベルでのシステムの観点から説明できる力を養成します（DP①2、DP②2）。

これら複数分野から、核となるテーマを見つけ、そのテーマに沿った専門知識を修得します。同時に、コース内複数専攻でクロスオーバー学修に取り組み、テーマ学修に資する関連知識を身につけることで、学修成果を将来のキャリアに応用できる力を養成します。

[スポーツマネジメントコース]

スポーツは個人の人格形成に留まらず、社会における思想、教育、文化、経済、心身の健康などに大きく影響を及ぼすものです。

トップアスリートをめざすための技能を高める演習・実技授業を核として（DP①）、スポーツと社会の関わりについて多角的に学修し行動することにより（DP②）、社会の先導者として多岐にわたる問題を解決できる能力と人格を形成します（DP③）。

- (3) 通学課程全体のカリキュラム・ポリシーに示されたとおり、以上の学修の成果は、まず成績をもって評価されます。成績評価は、その基準がシラバスによって明示され、厳正かつ公正におこなわれます。また、成績と同時に外部アセスメントや定性的評価の手法をも加味して多角的に評価がなされ、可視化がおこなわれます。
- (4) 本学の教育課程は、地元自治体や企業、他学の教員等から編成される外部評価委員の意見、また、学生からのアンケート調査の結果も踏まえて不断の点検と改革がおこなわれます。これにより、常に教育の質が保証されます。このことも通学課程全体のカリキュラム・ポリシーが示すとおりです。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

近年は日本から海外に出ていく以上に、海外から多くの人たちが日本に来るようになりました。この人たちの多くは、もはや経済的な理由ではなく、日本の文化に興味・関心をもつ人たちです。国際日本学部ではこのような時代に対応できるような教育、研究を実施しています。すなわち、「日本を知り、世界を知る。世界を知り、日本をふり返る」のモットーのもと、「国際社会で通じる能力やグローバルな視点を持ち、地域社会や地域経済の発展に貢献する人材」の育成をめざしています。

国際日本学部では、以上の指針に基づき、さらに本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に則って、以下の素養を備えた人材を積極的に受け入れます。

1. 日本と世界、各国、各地域の多様な文化的事象（歴史、言語、文化、文学、国際関係など）に興味があり、常に知的な好奇心、探究心、問題意識を持ち、問題解決能力と向上意欲のある者。
2. 多角的な視点でものごとを見る力、多文化交流を通してさまざまな文化や考え方を受容する寛容な心と柔軟な思考力を持つ者。
3. 国際的な視野を持ち、日本や世界が抱える諸問題の解決に寄与しようとする意欲のある者。
4. 学んだ知識や技能を活かして地域社会や地域経済に貢献するため、積極的に地域産業やグローバル企業、地域行政に関わっていこうとする者。あるいは、自らの知識や技能を世界に発信しようとする者。
5. 専門職（中学・高校の教師、博物館学芸員、図書館司書、日本語教員）の資格取得や大学院への進学を希望する者。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な素養を有しているかを評価します。

学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

学部等名 建築&芸術学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>建築&芸術学部建築&芸術学科は、芸術、建築、マンガ・アニメーション、メディア表現を教育研究の対象とし、学修活動の中で、創造力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（2））</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>大手前大学建築&芸術学部は、所定の卒業要件を満たし、以下の目標に到達した学生に対して卒業を認定し、学士（学術）を授与します。</p> <p>通学課程全体のディプロマ・ポリシーは、知識、実践力、信念と志を有し、社会に貢献できる価値ある人材を育成することを定めています。このことを基礎におき建築&芸術学部は、変化の時代をしなやかに生き抜くクリエイティブな人材を育成するというさらに具体的な学部固有の目標を置きます。</p> <p>このような人材育成の目標から、建築&芸術学部を卒業するには、以下の要件が求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野で培った創造的な構想力と論理的な思考力を有していること。 2. 互いの美の概念を尊重し、多様な人々と協働して問題を解決する能力を有していること。 3. 表現と探究を通して自己を確立し、文化的で豊かな社会を構築する強い意志を有していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>建築&芸術学部は、「専門に閉じない開かれた教育」を掲げます。</p> <p>（1）さまざまな専攻に対して開かれた教育（2）地域に開いた教育（3）新しいものに対して開かれた意識を持つ学生の育成、これらを実践する教育課程を編成・実施します。</p> <p>建築およびデザイン、造形芸術、メディア表現、舞台芸術などの創造活動と社会における文化創生を教育研究の対象とします。理論と実践による多様な学修活動をつうじて創造的な構想力と表現力、論理的な思考力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材を養成します。</p> <p>本学部の授業は実技・実習を軸にして構成されています。各専攻分野においては、必要とされる知識と技能を修得するための基礎教育を重視します。学修を進めながら「つくること」「表現すること」「探求すること」をつうじて、ものづくりの本質に迫り表現の可能性を探ります（DP①）。専門教育プログラムは、専攻を横断したカリキュラムを編成して芸術・デザインに関する感性、幅広い知識、技術、柔軟な思考と自分の価値観を備えた人材を養成します。展覧会や公演による作品発表、コンペやインターンシップ、社会連携活動などの実践的な経験や多様な研究と実証（DP②）により、広範な文化芸術活動の社会的意義を理解し、自ら思考し表現へと昇華させる主体性の確立と創造的で豊かな人間性を涵養していきます（DP③）。</p> <p>① 建築コース</p> <p>建築コースは、建築とインテリアデザインのふたつの専攻を設けています。これらの専攻では、多くの授業において専門で必要とされる共通の知識や技能を学びますが、3年次以降においては、建物の設計や構造、環境などから建築を考える建築専攻と、住宅や店舗などの内部空間を考えるインテリアデザイン専攻について、それぞれの特有な分野に重きを置いた授業や研究を行います（DP①）。またどちらの専</p>

攻も授業における知識や技能の修得に限らず、インターンシップや地域活動などの実践的な経験を通して、建築・インテリアデザインと向かい合う姿勢の修得を図ります（DP②）。そして建築分野・インテリアデザイン分野の専門家として、暮らしやすく安全な社会の実現に貢献できる人材を育成します（DP③）。

② 芸術コース

芸術コースでは、専門教育プログラムは、デザイン造形美術、マンガ制作、映像・アニメーション、映画・演劇の4つの専攻を置き、作品制作などの創作活動を主体とする実技実習を軸にして構成されています。各専攻分野では必要な知識と技能を修得します（DP①）。また、共同制作や公演、展覧会、社会連携事業活動等、実践的な活動をつうじて、多様な人々と共同し、社会に発信をします（DP②）。そして、自ら思考し表現へと高めていける主体性の確立と創造的で豊かな人間性の醸成を図ります（DP③）。

③ 以上の学修の成果は、まず成績をもって評価されます。成績評価は、その基準がシラバスによって明示され、厳正かつ公正におこなわれます。また、成績と同時に外部アセスメントや定性的評価の手法をも加味して多角的に評価がなされ、可視化がおこなわれます。

④ 本学の教育課程は、地元自治体や企業、他学の教員等から編成される外部評価委員の意見、また、学生からのアンケート調査の結果も踏まえて不断の点検と改革がおこなわれます。これにより、常に教育の質が保証されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

建築&芸術学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に基づき、以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。各種入学試験では、それまでに学習した教科の基礎的知識・技能および下記の資質を多面的・総合的に評価します。

1. 創造的表現活動に対する関心・旺盛な探究心と自己を高めようとする強い意欲があること。
2. 他者とコミュニケーションを取りながら協調・協働し、問題解決をしようとする意欲があること。
3. 将来に対して明確な目標を持ち、自らの夢に向かって挑戦する意志があること。

については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「数学」、「情報」、「芸術」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 現代社会学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部現代社会学科は、国内外の社会現象を教育研究の対象とし、学修活動の中で、現代社会の諸問題を発見・理解できる力を身につけ、社会人基礎力を備えた幅広く社会で活躍できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（3））</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。</p> <p>通学課程全体のディプロマ・ポリシーでは、学位授与者が建学の精神である“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”を実現するのに必要な知識、実践力、信念と志を有していることを保証すると明記しています。このことを踏まえ、現代社会学部では、現代社会を多面的・学際的に捉えるための情報収集・分析能力、社会課題の発見・解決に資する実践力とよりよい社会の構築に向けた構想力・行動力、そして、社会の諸活動に主体的に参加する意志の育成に学部固有の目標を置きます。これらの能力が、変容を続ける現代社会に対応するために必要な力であるからです。この目標を踏まえ、現代社会学部では、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士(学術)を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養、旺盛な自己開発精神、専門知識、そして自らの知見や技術を現代社会の実態把握や課題解決に活用するための能力を有していること。 2. 現代社会で求められる優れた国際感覚と多様性理解を基礎として他者と協働し、社会課題を解決する実践力と、よりよい社会を構想し行動する力を有していること。 3. 社会課題へ実践的に向き合う体験とその振り返り（リフレクション）を繰り返す学修によって育まれた豊かな人間性と、肯定的自己概念および社会的責任を果たそうとする強い意志を基盤として、社会の諸活動に主体的に参加する姿勢を有していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部は、ディプロマ・ポリシーにおいて、現代社会を多面的・学際的に捉えるための情報収集・分析能力、社会課題の発見・解決に資する実践力とよりよい社会の構築に向けた構想力・行動力、社会の諸活動に主体的に参加する意志の育成を学部固有の目標として定めています。</p> <p>本学部は、通学課程全体のカリキュラム・ポリシーに示された学部の専門教育を柱としつつ専門分野の垣根を越えたクロスオーバーの学びとともに、フィールドに出向いて実践的探究活動をおこなうクロスバウンダリーの学びを展開します。そしてその学びの経験を通じた振り返りを継続することを通じて、目標の達成をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）1、2年次では専門的な学修・研究のための作法・技法（アカデミック・スキルズ）や情報機器の活用方法とともに、各専攻の入門科目を学んでいくこととなります。これらの学びを通じて、多面的・学際的な視点から社会課題の解決に資する発想方法や技術を修得するとともに、より専門性の高い専攻科目の履修や将来の進路選択の準備を進めていきます。 （2）本学部の各専攻のカリキュラムは以下の方針のもとに編成されます。 <p>[メディア・社会学専攻]</p> <p>メディア・社会学専攻では、社会学やメディア学に関連する専門知識や社会調査</p>

の技法を通じて社会の実態を捉える能力と、ビジネスや研究活動などの分野で情報メディアを効果的に活用する能力の育成をめざします。

この目標に向けて、本専攻では社会学やメディア学の概論的講義や専門授業、社会調査士資格科目に対応した授業を通じて、社会学・メディア学・社会調査法に関する知識とリテラシー（DP①）を身につけます。また、演習授業や学外での調査実習での活動を通じて、社会の多様な生活様式を捉える視野を育むとともに、社会課題の発見・解決に向けて他者と協働し社会を前に進めるための自己理解とコミュニケーションスキルを活かした実践力（DP②）を身につけます。さらに、これらの知識・リテラシーと実践力を活かしたゼミナールや卒業研究、演習授業などの活動を通じて、社会実践活動への積極的な参加につながる豊かな人間性、肯定的自己概念、社会的責任を果たす意識（DP③）を涵養します。

[心理学専攻]

心理学専攻では、観察や実験などの科学的な方法によって、人間の行動や心のはたらき、仕組みを明らかにし、心を論理的に理解することをめざします。

その目標に向けて、心理学や心の測定方法に関する概論的講義や専門授業を通じて、専門分野の知識とリテラシー（DP①）を身につけます。また、実験や調査を伴う実習・演習での活動を通じて、他者への理解を深め協働して課題解決にあたる実践力（DP②）を身につけます。そのうえで、ゼミナール・卒業研究での卒業論文指導を通じて、心理学の知見と測定技術を社会で活用するための信念と志（DP③）を育みます。

[地域価値創造専攻]

地域価値創造専攻では、経済学を基盤として、地域にある魅力や課題への気づきから豊かな地域づくりの実践に至るまで、主体的かつ実践的に行動できる人材の育成をめざします。

この目標に向けて本専攻では、現代社会を理解するための経済学を中心とする知識の体系の学習および、産官学民の連携活動から招聘する外部講師によるまちづくりに関する先端的な授業を通して、地域価値創造に必要な知識やリテラシーを身につけます（DP①）。またゼミナールをはじめとして、学内外の境界を越え、本物の社会に触れる授業を積極的に行うことで、社会実装を図るための行動力、実践力を養います（DP②）。これら知識・リテラシーの学修（DP①）と実社会での経験による学び（DP②）を行き来することで、地域への深い理解と社会的責任の意識を育むとともに、組織や社会における自らの居場所や役割を見出し、他者を尊重することができる豊かな人間性の醸成を図ります（DP③）。

[観光マネジメント専攻]

観光マネジメント専攻では、現代の観光をめぐる社会環境やビジネスの専門知識を学ぶとともに、実践的な観光業のスキルを身につけることによって、持続可能な新しい旅の形を創造できる人材の育成をめざします。

この目標に向けて、資格取得に向けた科目や各分野の観光ビジネスに関する学び、および外部の実務家による専門授業を通して、広く観光に関する知識やリテラシーを身につけます（DP①）。また、演習授業やゼミナールでの活動では、学外での活動を積極的に取り入れることで、座学のみでは把握できない観光の実際を理解するとともに、観光サービス産業の課題を解決し、地域の観光の魅力を世界に向けて発信する力を養います（DP②）。これらの学修を通じて、観光資源となる地域の自然や歴史文化等への理解を深め、観光マネジメントに携わるために必要な“豊かな人間性”を育み、“社会的責任の意識”を高めます（DP③）。

[情報・コンピュータ専攻]

情報・コンピュータ専攻では、現代社会の課題解決の手段として情報技術の活用

を推進し、また、実践することのできる人材の育成をめざします。

そのために、プログラミングや人工知能（AI）、プロジェクト管理などに関連する概論的講義や専門授業を通じて、ITエンジニアやプログラマーの基礎となる知識とリテラシー（DP①）を身につけます。また、プログラミング実習や課題解決型の演習での活動を通じて他者と協働していく実践力（DP②）を磨きます。また、演習授業やゼミナール・卒業研究の活動を通じて、身につけた技術を社会実装する取り組みに参加させ、現代社会に貢献するための信念と志（DP③）を育てます。

(3) 通学課程全体のカリキュラム・ポリシーで示されているように、以上の学修の成果は、まず成績をもって評価されます。成績評価は、その基準がシラバスによって明示され、厳正かつ公正におこなわれます。また、成績と同時に外部アセスメントや定性的評価の手法をも加味して多角的に評価がなされ、可視化がおこなわれます。

(4) 同じく通学課程全体のカリキュラム・ポリシーで示されているように、本学の教育課程は、地元自治体や企業、他学の教員等から編成される外部評価委員の意見、また、学生からのアンケート調査の結果も踏まえて不断の点検と改革がおこなわれます。これにより、常に教育の質が保証されます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

現代社会は変容の激しい社会です。技術革新が進み、ヒト・モノ・カネ・情報がグローバルに移動する中で、私たちを取り巻く社会環境は変わり続け、新たな課題が日々生み出されています。現代社会学部では、このような「現代社会および、その社会を構成する個人のよりよい状態（ウェルビーイング）とは何か？」という問いを追求する教育・研究活動を実施しており、その活動を通じて、変容を続ける社会に対応する力を備えた人材の育成をめざしています。

現代社会学部は、上記の方針を踏まえ、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に共感し、現代社会のさまざまな事象や課題について自律的に考え、その課題解決および社会貢献をめざし多様な学問領域に挑戦する、以下の素養を備えた人を求めます。また、さまざまな適性と多様な背景を持った学生を国内外から幅広く受け入れます。

1. 現代社会のさまざまな事象・課題に対する基礎的知識と問題関心を持ち、それらの教養・専門知識とその活用力を修得する強い意欲と向上心を有する人。
2. 優れた国際感覚や多様性理解の素養と、他者とのコミュニケーションを積極的にとり課題解決を試みる意欲・行動力を有する人。
3. 学修を通じて豊かな人間性と肯定的自己概念、社会的責任を果たそうとする意志を獲得する姿勢を有する人。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な素養を有しているかを評価します。

また、その素養の基礎となる学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を多面的・総合的に評価します。「①知識・技能」では、基礎的な教科である「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「②思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や協調性、論理的思考力、行動力などを重視します。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部経営学科は、国内外における経営現象を教育研究の対象とし、学修活動の中で、豊かな教養、経営学の専門知識を身につけ、地域に軸足を置きつつ、企業や団体における課題解決を通じて、社会の幸福と持続可能な発展に貢献できる人材養成を目的とする。 （大手前大学学則第3条の3（6））</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。経営学部では、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（経営学）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の幸福と持続可能な発展に貢献するための高い志、広い視野、経営学の専門知識を備えている。 2. 経営学の専門知識を用いて、社会における課題の解決策を考え、他者と協働してそれを成し遂げる力を備えている。 3. 自らのキャリアを主体的に形成し、実践と内省を繰り返しながら成長する力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、国内外における経営現象を教育研究の対象とし、地域に軸足を置きつつ、企業や団体における課題解決を通じて、社会の幸福と持続可能な発展に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて、教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学に対する興味、関心につながる導入教育の充実 2. 社会の発展に貢献する志と幅広い視野の涵養 3. 幅広い経営学の基礎知識の修得 4. デジタル社会に適応し得る知識の修得 5. 実社会で活躍するための基礎スキルの修得 6. 産学連携による理論と実践を結びつけた学び 7. 自律的なキャリアの形成と他者の支援につながる学び
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、本学の建学の精神、目的、使命及び教育方針に基づき、以下の資質を備えた学生を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学を学ぶための基礎となる科目を幅広く履修している学力を保有する。 2. 社会、組織、人について、深い洞察力をもって論理的に考え、表現できる。 3. 社会的な問題の解決に関心を持ち、他者と協働できる。 4. 経営学を中心とする本学の学びに興味を持ち、その学びを社会の発展に活かす意欲がある。 <p>ついでには、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」、「商業」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度</p>

のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 健康栄養学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部管理栄養学科は、複雑多様化した健康課題を教育研究の対象とし、学修活動の中で、コミュニケーション能力、企画力、及び実行力を身につけ、幅広い教養、高度な専門知識・技能、豊かな人間性を兼ね備えた、国民の健康向上に貢献できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（4））</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部は、教育方針に基づいて設定された授業科目を履修し、厳正な成績評価のもと基準となる単位数や成績評価基準を満たすことを学位授与の基準とします。学生は4年間の学びや課外実践、ボランティア活動をつうじて、社会に貢献できる健康と栄養の専門職としての能力・素養を備えることが求められます。卒業認定された学生には、学士（栄養学）を授与します。</p> <p>健康栄養学部は、学位授与者が以下の知識・能力・態度を身につけていることを保証します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践的な管理栄養士として必要な素養を保持し、「食・栄養・健康・医療」に関する高度な専門的知識を身につけていること。 2. 健康・栄養に関する課題を自ら発見し、多様な人々と協働して解決策を提案する能力を有していること。 3. 栄養の専門家としての高い倫理観を持ち、社会的責任を認識し、それに基づいて行動できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部は、「食」をつうじて人々の健康および生活の質の向上を支援する栄養管理の専門家として、医療や福祉をはじめ、スポーツ、学校、企業など幅広い分野で社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成します。</p> <p>全てのカリキュラムは、食と健康の専門家を育成することを目的とし、専門知識（Knowing）、困難を克服する問題解決能力（Doing）、豊かな人間性や高い倫理観などの社会人としての基盤的能力（Being）を養成する科目で構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合科目 <p>大学の学び方を身につける科目、外国語コミュニケーションや社会に出るために必要な情報活用方法を学ぶ科目、スポーツやキャリアアップに関する科目で構成（DP①、DP②②、DP③）。</p> 2. 専攻科目 <ol style="list-style-type: none"> （1）基礎導入分野 <p>専門科目の学修の導入として位置付けられ、専門分野を学ぶために必要な基礎的な知識を学ぶ科目で構成（DP①1）。</p> （2）専門基礎分野 <p>専門分野における知識や技術を修得するための基盤となる分野として、「社会・環境と健康」（DP①1）、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」（DP①）、「食べ物と健康」（DP①）の3つの分野で構成。</p> （3）専門分野 <p>管理栄養士としての専門性を高めるために必要な分野として、「基礎栄養学」（DP①）、「応用栄養学」（DP①）、「栄養教育論」（DP①）、「臨床栄養学」（DP①）、「公衆栄養学」（DP①）、「給食経営管理論」（DP①）、「総合演習」（DP</p>

①2)、「臨地校外実習」(DP①2、DP②2、DP③)の8つの分野で構成。

(4) 発展分野

管理栄養士としての情報収集や分析および課題解決力を養うために、「卒業研究」(DP①、DP②2、DP③)など主体的に考える力を養う科目や、「ミライステッププログラム関連科目」(DP①、DP②2、DP③1)で構成。

これらの教育課程は1年次から4年次まで段階的に配置し、講義・演習・実験・実習を組み合わせた授業を展開します。

3. 通学課程全体のカリキュラム・ポリシーに示されたとおり、以上の学修の成果は、まず成績をもって評価されます。成績評価は、その基準がシラバスによって明示され、厳正かつ公正におこなわれます。また、成績と同時に外部アセスメントや定性的評価の手法をも加味して多角的に評価がなされ、可視化がおこなわれます。
4. 本学の教育課程は、地元自治体や企業、他学の教員等から編成される外部評価委員の意見、また学生からのアンケート調査の内容をも踏まえて、不断の点検と改革がおこなわれます。これにより、常に教育の質が保証されます。このことも通学課程全体のカリキュラム・ポリシーが示すとおりです。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

健康栄養学部は、本学の建学の精神、目的、使命、および教育方針に基づき、自ら課題を探究し、自律的に考え行動して解決の道を切り拓く意欲と能力に富み、食をつうじて国民の健康向上に貢献したい学生を受け入れます。

多様な能力を持った学生を幅広く受け入れるために、多様な選抜方法を用意し、公正かつ厳正な選考をおこないます。

健康栄養学部は、以下の素養を備えた人材を積極的に受け入れます。

1. 管理栄養士をめざすための基盤となる知識・能力を有し、それらを発展させる意欲を持つ者。
2. 健康と栄養の専門家として社会に貢献したいと考える者。
3. 問題発見や解決にあたり、他者と積極的に協同作業をおこなう姿勢を持つ者。

については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「生物」、「化学」、「数学」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な素養を有しているかを評価します。

学部等名 国際看護学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部看護学科は、国際化する社会で暮らす多様な人々への看護に関する課題を教育研究の対象とし、グローバルな視野に立った教養を基礎とする知識・技能・態度を身につけ、全ての人が人らしく生きるための支援を実践できる人材養成を目的とする。（大手前大学学則第3条の3（5））</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部は、学内での学びと国内外の広範な地域における学術交流活動を通して、グローバルな視野に立った教養を基礎とする知識および看護学の専門知識・技術・態度を修得し、国際化する社会において看護の専門家としての基盤的能力を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。所定の期間在学し、使命および教育方針に基づいて設定された授業科目を履修して厳正な成績評価のもと基準となる単位数、成績評価基準を満たすことを学位授与の条件とします。</p> <p>本学は、学位授与者が以下の知識・能力・態度を身につけていることを保証します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者が求める健康支援と看護を多職種と連携・協働しながら実践するための知識および技術を有している。 2. 看護職者として課題を見出し、克服するために、主体的に課題に取り組むことができる。また看護問題・課題の解決に向けて、必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な看護方法を計画し安全かつ的確に行動することができる。 3. 国際化する社会に暮らす人々に寄り添い、多様な人々の営みを理解、受容し、個人の価値観、信念、宗教観、生き方を尊重することができる等、グローバル人材としての資質を有している。 4. 国際化する社会に貢献するグローバル人材として、臆することなく英語を主とする外国語でのコミュニケーションを図ることができ、かつ看護職者として医療現場において適切な医療英語を使った対応ができる。 5. 各個人が有する多面的な価値観や伝統、および生活様式の多様性を受容する豊かな人間性と、人の健康と命に寄り添う高い倫理観と人権意識を持ち、看護の専門家として国際化する社会に貢献するという強い社会的責任感を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部は、国際化する社会で暮らす多様な人々を対象に、人々の営みや価値観の違いを理解、受容する広い視野を持ち、対象者のニーズに応じた健康支援と看護を実践するグローバル人材としての看護師を養成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な人々の価値観や文化の違いを受容し行動するグローバル人材としての資質を養うため、日本人だけでなく、定住外国人や訪日外国人、帰国者、渡航者および在外日本人と、彼ら/彼女らを支援する人々の活動を理解するための科目を開講する。 2. 国際化する社会の一員として、英語を中心に中国語や韓国語等の外国語を学ぶ。特に英語は1年次春学期から会話力や表現力を培うためネイティブスピーカーによる演習を実施するとともに、医療現場での対応を想定した医療英語を体系的に学び、臆することなく外国語でのコミュニケーションを図ることができる能力を身に付ける。 3. 総合科目のうち基礎分野ではスポーツやセルフケアに関する知識を習得し、専攻科目の専門基礎分野において人のライフサイクルや相手を尊重し傾聴する姿勢を学ぶことで、多様な人々に寄り添った健康支援を行う看護師としてのコミュニケーション

<p>ジョン能力と対人スキルを高める。</p> <p>4. 看護に求められる多様な人と場を理解するため、阪神地区を基盤とした実習を1年次春学期から展開し、4年間を通して国内外での実習経験を積み重ねることで、対象者ひとりひとりに応じた健康支援の必要性を理解するとともに、看護の実践力を身に付ける。</p> <p>5. 専攻科目のうち専門基礎分野では、健康や疾病を理解する基礎医学関連科目を配置し、人体への科学的根拠に基づく理解を深めるとともに、看護職としての倫理観を身に付ける。</p> <p>6. 専攻科目のうち専門分野では、各領域に社会の国際化を反映した科目を配置し、海外での研究活動経験や医療現場での豊富な臨床経験を持つ看護師、助産師、保健師、医師等による最新の研究成果を取り入れた授業を行うことで、それぞれの領域を通じたグローバルな視野と看護における課題を理解する。</p> <p>7. 実習では少人数グループを編成して教員と共に実習施設での看護の実践を行うと同時に、各人が対応したケースを全員で共有しながら振り返りを行うことで、複雑多岐にわたる医療現場のなかで多職種と連携して主体的・対話的に看護実践の応用力を発揮するための適切な看護の専門的知識と技術を身に付ける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）</p> <p>（概要）</p> <p>国際看護学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に共感し、自ら課題を探究し自律的に考え行動して解決の道を切り拓く意欲と能力に富み、多様性を有する対象者への看護を通じて国際化する社会に暮らす人々の健康支援とその向上に貢献するグローバル人材としての看護師を志す学生を受け入れます。</p> <p>多様な能力を持った学生を幅広く受け入れるために、多種の選抜方式を用意し公正かつ厳正な選考を行います。</p> <p>本学は以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際化する社会で暮らす人々への看護と健康支援に対する強い関心と旺盛な探究心および自己成長に対する意欲を有している。 2. 看護職者が国際化する社会において果たす使命や役割について理解し、看護の専門家としてグローバルな社会に貢献しようとする熱意と意欲を有している。 3. 多様性を理解、受容するグローバル人材としての看護師を目指すための基盤となる知識・能力を有している。 <p>具体的には、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、本学で看護を学ぶ意欲と一定程度のコミュニケーション能力や論理的思考力、行動力等の資質を重視します。「知識・技能」では、多様な人々を理解、受容し適切なコミュニケーションをはかる基盤となる「国語」、「外国語」と、看護の基礎となる「生物」、「化学」、「数学」に関する基本的な知識・技能を有していることが望まれます。</p> <p>入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。
<https://www.otemae.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
国際日本学部	—	14人	6人	5人	0人	0人	25人
建築&芸術学部	—	15人	2人	2人	1人	0人	20人
現代社会学部	—	9人	9人	4人	2人	0人	24人
経営学部	—	8人	3人	1人	1人	0人	13人
健康栄養学部	—	7人	5人	3人	1人	0人	16人
国際看護学部	—	9人	7人	5人	12人	1人	34人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		342人					342人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大手前大学ウェブサイト→大学案内→研究活動→研究者・ 教員情報 https://www.otemae.ac.jp/professor/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際日本	160人	144人	90.0%	670人	611人	91.2%	6人	43人
建築&芸術	170人	206人	121.2%	690人	803人	116.4%	6人	32人
現代社会	200人	227人	113.5%	820人	884人	107.8%	6人	33人
現代社会 (通信教育課程)	500人	207人	41.4%	3,000人	3,466人	115.5%	500人	941人
経営	170人	200人	117.6%	510人	543人	106.5%	9人	6人
健康栄養	80人	84人	105.0%	320人	329人	102.8%	16人	6人
国際看護	80人	86人	107.5%	320人	343人	107.2%	0人	0人
合計	1,360人	1,154人	84.9%	6,330人	6,979人	110.3%	543人	1,061人
(備考)								
・令和4年4月 学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から 国際日本学部国際日本学科に名称変更。								
・令和5年4月 経営学部経営学科 開設。収容定員欄は学年進行中の人数を記載。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際日本	174人 (100%)	9人 (5.2%)	142人 (81.6%)	23人 (13.2%)
建築&芸術	192人 (100%)	7人 (3.6%)	155人 (80.7%)	30人 (15.6%)
現代社会	231人 (100%)	5人 (2.2%)	189人 (81.8%)	37人 (16.0%)
健康栄養	85人 (100%)	0人 (0%)	81人 (95.3%)	4人 (4.7%)
国際看護	79人 (100%)	5人 (6.3%)	68人 (86.1%)	6人 (7.6%)
合計	761人 (100%)	26人 (3.4%)	635人 (83.4%)	100人 (13.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 伊丹産業(株)、大和ハウス工業(株)、西宮市役所、大阪市高速電気軌道(株)、天の川病院、蘇生会総合病院、兵庫医科大学病院、兵庫県立尼崎総合医療センター				
(備考) ・令和4年4月 学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から国際日本学部国際日本学科に名称変更。 ・令和5年4月 経営学部経営学科 開設(卒業者なし)。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
(通学課程) シラバス作成に関しては、依頼時に教学運営の基本方針(3つのポリシー)を示し、担当教員は「授業の目的」「到達目標」「授業概要」「各回の授業計画」の他、「課題に対するフィードバックの方法」「授業時間外学習」「成績評価の基準と方法」などの項目に入力していく。また、通学課程では各科目に本学独自の「ディプロマポイント評価観点」を①Knowing(知識とリテラシー)、②Doing(実践力)、③Being(信念と志)の3つに分けて示し、学生がどのような能力を身につけることができるかを示している。入力された内容については、各学部長及び各メジャー主任、教務課が確認のうえ、学生に対しては本学の総合学修システム(LMS)で、外部に対しては本学ウェブサイトにおいて、それぞれ公表して

いる。

(通信教育課程)

各教員は本学のカリキュラム・ポリシーに沿った「学習目標」「学習の進め方」「各回の授業計画」のほか、「授業時間外学習」「成績評価方法」等をシラバスにまとめていく。

通信教育課程の授業方法は大きく分けて3つあり、オンデマンド型の通信授業、メディア授業(ライブ配信含む)、対面のスクーリングとそれぞれ教育効果が高く、学修がはかどり易い授業方法により授業は進められる。

シラバスの内容については、現代社会学部長、通信教育部長等が確認のうえ、学生に対しては通信教育課程の学修支援システムで、外部に対してはウェブサイトで公表を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

(通学課程)

学習成果にかかる成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意味	評価点の範囲	グレードポイント
A	特に優秀な成績	100～90	4
B	優れた成績	89～80	3
C	一応その科目の要求を満たす成績	79～70	2
D	単位が与えられる最低の成績	69～60	1
F	不合格	59以下	0

学生に対しては、配布している冊子『履修ガイド』で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスにおいても周知を図っている。

卒業については、大学全体及び各学部ごとにディプロマ・ポリシーを作成し、示している。これらの方針に沿って、修業年限及び各学部で示した卒業要件単位数を学生に対して示している。

① 修業年限

卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、2年次に編入学した者については3年以上、3年次に編入学した者については2年以上となる。

大学には、休学期間を除き、8年間(編入学した者を除く。)在籍することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。

② 卒業要件単位数等

卒業するためには、各学部において次の要件をすべて満たした上で、卒業の要件となる科目の中から124単位以上を修得する必要がある。

i) 国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部

①ベーシック科目から「学びの道しるべA」「学びの道しるべB」「学びの道しるべC」「学びの道しるべD」「アカデミックスキルズ」「未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求」「未来への道を築く：仕事理解とキャリア形成」の7科目14単位を修得していること。

②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。

外国人留学生については、「英語Ⅰ」に替えて「外国人のための日本語科目」から指定の6単位を修得していること。

- ③「情報機器の活用とプレゼンテーション科目」から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④専攻科目から、所属する学部の専攻プログラムのメジャーを修めていること。

ii) 経営学部

- ①ベーシック科目から「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」の4科目8単位を修得していること。
- ②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。
外国人留学生については、「英語Ⅰ」に替えて「外国人のための日本語科目」から指定の6単位を修得していること。
- ③情報機器の活用とプレゼンテーション科目から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④「経営学」メジャーを修めていること。
 - ・専攻科目から必修20単位を修得していること。
 - ・5つの専門分野（【経営】【会計】【マーケティング】【デジタルビジネス】【いきいきキャリア】）のうち1つの専門分野から16単位以上を修得していること。
 - ・経営学部の専攻科目から74単位以上修得していること。

iii) 健康栄養学部

- ①ベーシック科目から「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」の4科目8単位を修得していること。
- ②外国語科目から「英語Ⅰ」1単位を修得していること。
- ③情報機器の活用とプレゼンテーション科目から「情報活用Ⅰ」1単位を修得していること。
- ④各年次における専攻科目の必修科目（ただし次号に掲げる科目を除く）計96単位をすべて修得していること。
- ⑤専攻科目の選択必修科目から「管理栄養士特講Ⅰ」および「管理栄養士特講Ⅱ」または「卒業研究」の計4単位を修得していること。
- ⑥「栄養学」メジャーを修めていること。
- ⑦通算GPAが1.5以上であること。

iv) 国際看護学部

- ①総合科目から、以下の22単位以上を修得していること。
 - ・必修17単位
 - ・[グローバル社会と言葉]から「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位
 - ・[グローバル社会と言葉]から「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位
 - ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上
- ②専攻科目の[専門基礎分野]から必修29単位を修得していること。
- ③専攻科目の[専門分野]から必修71単位を修得していること。
- ④「看護学」メジャーを修めていること。
- ⑤通算GPAが1.5以上であること。

(通信教育課程)

学修成果にかかる成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

学生に対しては、『学生便覧』で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスや学修支援システム等においても周知を図っている。

卒業については、大学全体及び通信教育課程のディプロマ・ポリシーを作成し、示している。この方針に沿って、修業年限及び卒業要件単位数を学生に対して示している。

①修業年限

卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、3年次に編入学した者については2年以上となる。

大学には、休学期間を除き、8年間（編入学した者を除く。）在学することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。

②卒業要件単位数等

卒業するためには、下表の要件を満たす必要がある。既修得単位を含め124単位を修得し、修業年限、スクーリング単位数を満たした者は、教授会の議を経て、卒業を認定する。

	卒業要件単位数 (うちスクーリング要件単位数)	修業年限
1年次入学生	124単位以上(30単位以上)	4年以上
3年次編入学生	124単位以上(16単位以上)	2年以上

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際日本	国際日本	124単位	有	20～26単位(半期)
建築&芸術	建築&芸術	124単位	有	20～26単位(半期)
現代社会	現代社会	124単位	有	20～26単位(半期)
	現代社会 (通信教育課程)	124単位	無	4月入学 : 42単位(年度) 10月入学 : 22単位(年度)
経営	経営	124単位	有	20～26単位(半期)
健康栄養	管理栄養	124単位	有	52単位(年間)
国際看護	看護	124単位	有	20～26単位(半期) 1年次は年間40単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法： (通学課程) 単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質を保つため、各学期もしくは、1年間に登録できる履修登録単位の上限を定めている。この上限を超えて履修登録をすることはできない。 学期ごとに履修登録できる単位数の上限(GPA)は、前学期のGPAにより次のとおり変動する(健康栄養学部は除く)。		

	<p>原則として</p> <table> <tr> <td>半期</td> <td>20 単位</td> </tr> <tr> <td>年間</td> <td>40 単位</td> </tr> </table> <p>※国際看護学部 1 年次</p> <table> <tr> <td>前学期のG P Aが 2.5 以上 3.0 未満</td> <td>22 単位</td> </tr> <tr> <td>前学期のG P Aが 3.0 以上 3.5 未満</td> <td>24 単位</td> </tr> <tr> <td>前学期のG P Aが 3.5 以上</td> <td>26 単位</td> </tr> </table> <p>なお、入学時の学期（編入学を含む）のC A Pは、20 単位である。</p> <p>注）健康栄養学部は年間 52 単位とする。ただし、通算G P Aが 3.5 以上の者は、これを超えて履修することができる。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>G P A制度を用いて、成績優秀者を卒業時に表彰することにより、学生の学修意欲向上に努めている。</p>	半期	20 単位	年間	40 単位	前学期のG P Aが 2.5 以上 3.0 未満	22 単位	前学期のG P Aが 3.0 以上 3.5 未満	24 単位	前学期のG P Aが 3.5 以上	26 単位
半期	20 単位										
年間	40 単位										
前学期のG P Aが 2.5 以上 3.0 未満	22 単位										
前学期のG P Aが 3.0 以上 3.5 未満	24 単位										
前学期のG P Aが 3.5 以上	26 単位										
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	<p>公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info/educational/</p>										

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。
 大学ウェブサイト[確認方法：インターネット]
<https://www.otemae.ac.jp/about/campus/>
 大学案内パンフレット[入手方法：インターネット]
<https://www.otemae.ac.jp/request/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
国際日本	国際日本	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費240,000円、 休学中の在籍料120,000円
建築&芸術	建築&芸術	810,000円	240,000円	460,000円	その他:施設設備費240,000円、 教育充実費100,000円、休学中 の在籍料120,000円
現代社会	現代社会	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費240,000円、 休学中の在籍料120,000円
経営	経営	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費240,000円、 休学中の在籍料120,000円
健康栄養	健康栄養	890,000円	240,000円	510,000円	令和6年度からの入学生 その他:施設設備費240,000円、 教育充実費150,000円、休学中 の在籍料120,000円
		860,000円	270,000円	510,000円	令和5年度までの入学生 その他:施設設備費240,000円、 教育充実費150,000円、休学中 の在籍料120,000円
国際看護	国際看護	1,050,000円	240,000円	820,000円	令和6年度からの入学生 その他:教育施設充実費 620,000円、休学中の在籍料 200,000円
		1,000,000円	270,000円	820,000円	令和5年度までの入学生 その他:教育施設充実費 620,000円、休学中の在籍料 200,000円
現代社会 (通信教育 課程)	現代社会 (通信教育 課程)	326,000円	20,000円	24,000円	その他:在籍料24,000円。 10月入学生は入学年度及び卒 業年度に限り授業料、在籍料を 半額とする。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
(通学課程) 本学では、専任教員がアドバイザーとして学生一人ひとりを担当し、学修その他に関する指導を行っている。アドバイザーは、担当する学生の履修登録、授業への出席状況、成績や就職活動状況などを絶えずモニターし、必要に応じて学生に助言や指導を行う。年間を通じた指導では、アドバイザーは、担当する学生の学修(出席情報の把握を含む。)を指導し、進路決定や学籍異動(留学・転部・転籍・休学・復学・退学)に関する相談に応じる。また、学期ごとには、毎学期の履修について助言・指導し、学業成績に基づいて学生本人・保護者と面談する。保護者会においては、保護者からの相談に応じる体制を整えている。 また、2025年度からは新たに事務組織として「障がい学生支援室」を立ち上げ、障がい等のある学生に対して、支援制度の策定から学内外との連携・調整など一元化して対応を推進している。
(通信教育課程) 学修計画や学修上での相談・問い合わせ等に対応する専任スタッフとして学修アドバイザーを配置し、学生の支援・相談を担っている。学修アドバイザーは、個別相談対応だけで

<p>なく、履修登録前後や授業開始後、単位修得試験前後等学生が悩んだり、学修がストップしそうな時期（履修履歴等により学生の学習やアクセス数が減少する時期等）に学修支援システムでメッセージを送信するなど、学修全般に対する支援を行っている。</p> <p>また、若年者層には学修支援を目的とした科目「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」の履修を推奨し、当該の授業内では担当教員との個別面談を実施する等通信教育の学習形態である一人で学修することの不安や孤独感を少なくするような支援を実施している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 通学課程と通信教育課程のそれぞれに体制をとって学生支援を行っている。</p> <p>(通学課程) 専門スタッフが、基本的に学生からの相談にマンツーマンで対応している。また単位認定授業として3年生春学期から就職支援講座の開講や、企業をお呼びしての本学独自の企業説明会や保護者向けの説明会、インターンシップの推奨、単位認定制のインターンシップ制度など、特に就活を中心に多方面から学生のキャリア設計を支援している。</p> <p>(通信教育課程) オンラインによるキャリアカウンセリングを専門業者に委託している。正科生は専門のキャリアカウンセラーからカウンセリングやアドバイスを受けることができる。なお、本サービスでは求人紹介等は行わない。</p> <p>26歳未満の若年層学生には有料の就職活動準備コミュニティへの入会を促している。当コミュニティでは、約2か月に1回のペースでの就職活動に係るガイダンスの開催、オンラインインターンシップを軸とした企業研究力向上プログラムや集団面接練習会を実施している。また、キャリアカウンセラーが個別面談を実施し、ガイダンスにおいて課した課題のフォロー、就職活動に対する疑問や悩みに対してアドバイスをを行う等、円滑な就職活動のサポートを行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学生の心身の健康等に係る支援を行うために、「健康相談室」「学生相談室」を設置し、相談が必要な学生が利用できるようにしている。</p> <p>○『健康相談室』は授業期間中の月～金曜日の9:00～17:00に開室、健康相談および救急処置等に応じている。1年に1度の健康診断を実施、結果をもとに健康指導や、身体の異常、苦痛、不安等を感じたら、一人で悩むことなく気軽に来室するように紹介している。早期に適切な対策を立てれば解決することが多く、必要な時は学校医に相談し、信頼のできる各科の専門医の紹介も行っている。</p> <p>大学学校医 甲南回生 松本クリニック 診療科目 内科・外科・整形外科・皮フ科・泌尿器科 所在地 芦屋市三条南町13-16 ソレイユ芦屋3F</p> <p>○『学生相談室』は、心身の健康を図るためカウンセリングを行っている。誰もが経験する様々な悩みや問題について、専門のカウンセラーが相談に応じ、問題の解決に向けて学生とともに考えていくところとして案内している。 利用方法や開室日時については、キャンパス内のウェブ掲示板に掲示している。 また、案内用紙は事務室窓口などにも設置している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。

<https://www.otemae.ac.jp/institution/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128310108838
学校名 (〇〇大学 等)	大手前大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人大手前学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		600人 () 人	584人 () 人	- () 人
内訳	第Ⅰ区分	395人	379人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅱ区分	126人	133人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅲ区分	-	61人	
	(うち多子世帯)	() 人	() 人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	人	人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	11人	
区分外 (多子世帯)	人	人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				- () 人
合計 (年間)				631人 () 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	16人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	27人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）	
年間	—	前半期	後半期
		人	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	25人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	57人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	59人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。